



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	高潔なる志
Author(s)	本堂, 武夫
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 11, 2-2
Issue Date	2008-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45669
Type	other
File Information	BISC011_002.pdf



高潔なる志

関先生は、教育学のご専門のお立場から、異文化の理解について研究・教育されていたことはもちろんのこと、それを留学生指導の場で実践されてこられました。留学生向けの授業では、日本文化への理解を深めさせるために、地域社会との交流に並々ならぬ努力を払われてこられましたし、様々な問題を抱えて訪れる留学生に対して、親身になってその解決策とともに考えてこられました。特に、留学生をとりまく人々のネットワークづくりに熱心に取り組んでこられました。このような関先生の暖かい思いやりに感謝して、新年の1月6日に、留学生80人が聖ミカエル教会に集まって、還暦のお祝いをしたとのこと。関先生は、車いすに乗って、酸素ボンベを携えて参加されたと伺っております。最後まで、留学生を愛し、留学生に愛された関先生でありました。

関先生は、常日ごろ、留学生は、学び研究する学者者であると同時に、その地域で生活する生活者であるという、お考えのもとに、日常生活の安定と実り豊かな留学生生活を送れるような環境整備にあらゆる角度から方策を講じておられました。時間や労力を決して惜しむことなく、公私の別なく留学生の支援に没頭されていたと言っても過言ではありません。そういう意味において1991年に北海道大学に留学生センターが設置されると同時に同センターの助教授に就任されたことは、関先生にとっても北海道大学にとっても、またなによりも多くの留学生にとって幸いなことであつたと思います。2002年に教授に就任されてからは、さらにいっそう理想の実現に邁進されてこられました。

関先生が、北海道大学に入学された1967年は、ヨーロッパ連合EUの前身であるヨーロッパ共同体ECが発足した年です。いわば、国境や民族や文化の壁を越える国際的な取り組みの始まりの年に、関先生は異文化理解の勉強を始めたわけであります。当時のECが、今日のEUとしてかくも発展するとは誰も予想し得なかったと思います。関先生が思い描き、実践してこられた異文化の理解や交流はまだまだ小さな果実かもしれません。また、志半ばで逝くことは、その無念さいかばかりかと推察いたしますが、留学生の母というべき関先生が遺してくれた志を、私たちが受け継ぐことによって、やがて大きな果実となると確信しております。

関先生の高潔な志と暖かいお人柄に衷心より感謝の祈りを捧げます。

本堂 武夫（留学生センター長）